

ギリシヤの感性×日本の生地 等々力溪谷でARTな『着るスカーフ』を創る MICHAIL GKNISブランド

ミハイル

ミハイル(世田谷区中町、ミハイル・ギニス社長、03・6809・8540、www.michailgknis.com)は、日本の生地・加工をヨーロッパAN ARTの感性と融合させたブランドMICHAIL GKNISを企画運営している。

代表作のプレインコーニススカーフ「登録意匠」は、和歌山県のハイテクニットに、ギリシヤの海辺からインスパイアされたデザインを掛け合わせた服にもなるスカーフである。伸縮性のある綿素材を蛇腹にカットした四角い布は、まるでウェアラブルアートのように比類ない存在感を放つ。着る人のスタイルや場所に合わせて何通りもの着方ができ、家で洗える手軽さも魅力。伊勢



日本の生地と光が生み出すイメージをオリジナルスマホケースに



“ARTを日常に” 新発売される靴下(3型各2色)。予約受付中



日本独自の生地の魅力を世界へ発信するミハイル社長

丹新宿本店や阪急うめだ本店の期間限定店、等々力溪谷の中にある完全予約制のアトリエショップ、ウェブストア(<http://store.michailgknis.com/>)で販売している。

着る人と機屋の直接の交流を大切に素材にこだわった一点モノなどのスカーフで日本の生地の素晴らしさを伝えながら、「世界中で日本でしか作れない技術がいくつもある。本当に気に入ったものを長く大事に着る価値観を広げていきたい」と社長は語る。

創作活動の他に、布とプロジェクトションマッピングで表現したアート活動も展開する。その幻想的なイメージはスマホケースやポストカード、靴下などに落とし込まれ普段使いできる。日本の生地に魅せられた社長は、世界を視野に、技術の維持継承そして日本とギリシヤをかけあわせた新しい匠の技に挑戦し続けている。